

1. 県外豚熱発生農場への派遣を踏まえた初動防疫計画の一考察

玖珠家畜保健衛生所

○児玉彬・安藤紀子・山崎窓・羽田野昭

【はじめに】

豚熱は2018年9月9日の岐阜県での発生以来、9県で計59事例発生し、これまでに約17.1万頭が殺処分されている。今回、県内での特定家畜伝染病の発生に備え、豚熱発生県における防疫作業の派遣実績を踏まえた、養豚場における初動防疫計画を検討した。

【派遣時の対応内容】

A県（飼養規模：2,000頭、一貫経営）、B県（飼養規模：8,000頭、一貫経営）

「集会場」A県：名簿氏名をチェックし血圧測定、検温、問診はせず、更衣を実施。B県：名簿氏名をチェックし、検温後、血圧測定、問診を受け更衣を実施。

「クリーンゾーン」A県：プレハブハウス設置され獣医師用や自衛隊用などで分かれ、暖房設備を配備。B県：テント設置され、スポットクーラー等の冷房設備を配備。

「殺処分方法」A県：母豚・肥育豚を各豚舎の搬出台付近まで追込み、コンパネを用い保定した後、電殺器で頭部を左右から挟み通電（10秒～30秒）し気絶させた後、胸部を豚が死亡するまで通電（約30秒～1分程度）し検死を実施。B県：母豚・肥育豚を各豚舎の入口付近まで追込み、コンパネを用い保定した後、電殺器で頭部を左右から挟み通電（5秒）し気絶させた後、胸部を通電（10秒）し搬出台付近へ移動後、心臓に薬剤（約20ml）を注入（約10秒）し検死を実施。

「搬出方法」A県：死亡豚を搬出台から重機で吊り上げ、フレコンバッグに詰め、重機で積載場へ搬送。B県：死亡豚を搬出台から従事者がフレコンバッグ内に引落とし、重機で積載場へ搬送。

【初動防疫計画の検討】

A県とB県の対応内容を比較検討した結果、1時間あたりの殺処分頭数がA県10～20頭、B県20～35頭でB県の方がより効率的であったため、B県の事例を参考に殺処分に係る初動防疫計画を作成し、管内養豚場の従事者動員数や殺処分にかかるクール数及び従事者数を1クールあたり8時間で算出したところ、管内最大規模農場（約9,000頭規模）においては、9クール・710名であった。

【まとめ及び考察】

集会場やクリーンゾーンでは従事者の健康管理を目的とした検温等の実施や冷暖房の配備が必要と思われ、殺処分では、追込み方法や殺処分方法が異なると、殺処分にかかる時間が大幅に変動することが判明した。B県での対応事例を基に、管内養豚場における初動防疫計画を検討したところ、殺処分にかかる時間は豚熱に関する特定家畜伝染病防疫対策指針の目安内に収まっており、今回の検討内容は防疫対応に有効であると考えられる。

今後は、当県で導入した電殺器10台の効率的な使用も考慮しつつ本検討内容を当県の初動防疫計画に盛り込んでいきたい。